



No. 117

発行人 澁澤 茂

発行所・事務局 一般社団法人千葉県社会福祉士会

〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港4番5号

千葉県社会福祉センター5階

TEL 043-238-2866

Fax 043-238-2867

<http://www.cswchiba.com/>

E-mail: office@cswchiba.com

特集 「社会福祉協議会で 活躍するソーシャルワーカー」



インフラの発展は、衣食住という物質的な豊かさを私たちにもたらししました。しかし、人間を豊かにするのは、それだけではありません。人間関係、趣味、学び、経験、社会貢献といった、目に見えない精神的な豊かさもまた、豊かな人生を送る上で欠かせない要素です。

精神的な豊かさは、自ら積極的にに関わり、人々と触れ合い、様々な経験を積むことで育まれます。ソーシャルワークは、そうした心の成長を促すための重要な役割を担っており、まるで心の庭園を耕し、栄養を与えるようなものです。

≪ CONTENTS ≫

- 2 特集 社会福祉協議会で活躍するSW
- 6 石川県被災地支援の現場から
- 7 社会福祉士のわ
- 8 地域集会 因幡合同地域
- 9 まちぶらカフェ・ふくしの福袋
- 10 支援者支援の居場所
- 11 認定社会福祉士
- 12 事務局だより

介護保険外サービス
福祉に強い便利屋
グランドール



とにかく何でもやります！

☎ 080-8166-3774

<https://benriyagrandeur.com>



総合葬祭 二葉

ご事情に合わせてお手伝いさせていただきます。
葬儀費用やご遺骨のお預かりに
つきましてもお気軽にご相談ください。

◆永代供養墓 3.3万円（税込）

◆直葬 16.5万円（税込）

24時間365日対応

0120-918-512



特集

社会福祉協議会で活躍する ソーシャルワーカー

鴨川市社会福祉協議会

高橋 徹（たかはし とおる）



鴨川市社会福祉協議会では、個人や地域におけるささえあい、助け合いを支援し、誰もが安心して元気に暮らせるつながりのある地域を目指し活動しています。私の所属する地域福祉活動推進部門では行政からの委託である生活支援体制整備事業、放課後児童健全育成事業、高齢者等配食サービス事業併せて、ボランティア等の活動の支援、福祉教育の推進、赤い羽根共同募金、災害ボランティアセンター、地域防災活動への支援等に取り組んでいます。

今回、社会福祉協議会で活躍するソーシャルワーカーとして執筆の機会をいただき、入職から十年経過してこれまでの取り組みを振り返ってみました。たくさんの人達と出会って話をして行く中で、地域の課題に対して様々な人たちがつながり、カタチになるといった貴重な経験もありましたが、「福祉は生活に困っている人の事」と考えている方も少なくなく、理解を得ることが難しいこともありま。こうした地域の課題やボランティアの取り組みを理解してもらい、協力していただけるか、日々悩んでいるところです。

現在多くの市町村に共通する地域課題の中で、高齢者の足の問題があるのではないのでしょうか。車の運転ができなくなると通院や買い物、通いの場（サロン）へ行く事ができなくなります。

これに対して、鴨川市においては、二〇二一年から千葉トヨタ自動車による予約制乗合送迎サービス「チョイソコかもがわ」の実証運行の実施について話があり、事業主体である千葉トヨタ自動車の担当者より「地域住民へ周知に力を貸してほしい」と啓蒙活動について相談がありました。高齢であっても車を運転する方が多く、新しいサービスにはなじみがないことも理解していましたが、高齢化率が五〇％を超える地区もあるなど将来的には困る高齢者が明らかに、地域住民に理解をしてもらえ。るために担当者とは何度も打合わせを行いました。はじめは、ボランティア研修会、老人クラブと少人数の集まりから行政による医療福祉関係者への周知、区長会・地区社協への働きかけ、共通乗降場所の要望を聞くなど地道な啓発活動や話し合いの場が実を結び、地域住民自らによる会員登録の声掛けによる会員数の増加、昨年には対象エリアの拡大、来年の四月からは本格運行になる見通しになりました。この取り組みから、地域住

民自らが「サービスを知り、要望を出し、サービスを提供する側が要望を受け止めて改善する」といった地域住民の声が何らかの形で反映されるといったプロセスが非常に重要であると感じました。

地域では個人と家族、隣人ができること、地域の支え合い、民間企業、各種団体といった様々な主体があり、それぞれの位置づけや役割を理解しつつ主体的に活動できるきっかけをつくること、一緒に物事を考えるといったプロセスが大切であると思います。個別ニーズから地域福祉ニーズを見つけて解決するためには単に課題を発信するだけでなく、地域住民が興味関心を持ち参画するしかけを考える必要があります。私の考える地域福祉のゴールは困っている人が声をあげられること、困りきつてしまう前に最小限に抑えられることと考えます。これからも様々な人の声に耳を傾けて思いを形にしていけたらと思います。



我孫子市社会福祉協議会
渋谷 萌（しぶや もえ）



市社協に転職して二年目、今年度取り組んできた業務を紹介します。

まず一つ目は、貸付事業です。市社協で行っている貸付事業は大きく分けて二種類あり、一つは県社協が実施主体で市社協が窓口となり相談援助を行う生活福祉資金貸付事業、もう一つは、市社協が独自で実施している少額の善意銀行小口貸付事業です。私が担っているのは、相談者と面談を行い、生活の状況を詳しく伺うことです。また、貸付によって、その世帯が更生されるのかどうか見極めることです。市社協が独自で実施している少額の貸付けの場合は最終的に貸付ができるかの判断をします。この業務の中で大変なことは、貸付をお断りすることです。返済の見通しが立たないと貸付が出来ないため、極端に言えば、今食べる物が無くてもやむを得ずお断りする場合も

あり、困っている人を目の前に、自分の無力さを感じます。ただ、お断りをしながらも、生活相談や生活保護制度を案内し、行政に繋げることで支援の可能性を失わないようにしています。

また、その様な生活困窮者に向けた支援として行っているのが、私の二つ目の業務であるたすけあいバンク事業です。これは、市民から食料や日用品の寄付を募り、生活困窮者や子ども食堂へ無料で提供する事業です。一時的な繋ぎ支援にはなりますが、状況に応じて、食料や日用品をお渡しします。年末にはフードパントリーも実施し、貸付をお断りした世帯や生活困窮で相談に来所された方にも呼びかけました。たくさんの方にお米やお餅、そば等を配布することができ、「無事に年を越せた」との声も頂きました。

三つ目は、我孫子市民生委員児童委員協議会の事務局です。現在、我孫子市の民生委員・児童委員（以下、民生委員）の定数は一八六名おり、民生委員が円滑に活動を行えるよう、定例会の準備や研修の企画・運営、活動費の支払い、部会への参加、相談対応など業務内容は

多岐にわたります。その中で私が最も重要視しているのが、民生委員との関係性構築です。民生委員は、地域の身近な相談相手として大変な仕事が多い役です。民生委員を支えることが、その先の市民への支援に繋がると考えています。パターン化された業務をこなすだけでは無く、民生委員がより活動しやすくなるよう環境を整備していくことがこの仕事のやりがいであり、手ごたえを感じています。担当して二年経ち、以前に比べ良い関係を築くことができ、頼られるようになったと感じています。

最後に紹介するのは、能登半島地震の被災地、石川県穴水町災害ボランティアセンター（以下、災害VC）に職員派遣として、運営支援に入ったことです。穴水町災害VCでの主な業務は、住民からのニーズ受付と現場調査でした。現地では、マニュアルと簡単な引継ぎだけで現場を回していかなければなりません。特に難しかったのは、現地調査先で一般ボランティアの安全性が確保できる状況なのか？依頼を受け入れていいのか？など、判断の難しいケースが多々あったことです。派遣されている職員が、

所属する社協によって判断基準や考え方も異なるので、何を優先するべきか決めることが大変でした。また、派遣期間中に急遽、「仮設住宅説明会」に社協職員として参加する機会がありました。当時穴水町社協では、地域住民と顔の見える関係性”の構築に力を入れており、市民の方が集まる場に積極的に出向いていました。そんな中、説明会で、市民の皆さんに町社協や災害VCが担う役割について解説する大役を果たすことになりました。社協が住民に寄り添う組織であることが伝わるよう精一杯説明をし、現地の職員から好評の声を頂けたことは自信に繋がりました。私が担当している業務は、お金に関わること、食べ物（日用品）を渡すこと、市民を見守る民生委員をサポートすることでそれぞれが関わり合っています。さらに災害時にはその全てが連動し必要となります。偶然にも連動性のある業務に携わっていることは今の私の強みです。まだまだ経験が浅いですが、今は自分の信念を貫いて、いつか社会福祉士として皆様の仲間になれるよう、奮闘し続けていきたいです。

八千代市社会福祉協議会における 福祉教育の実践

～コミュニティソーシャル

ワーカーによる地域活動～

八千代市社会福祉協議会

八巻 裕美（やまき ひろみ）



地域とともに築く福祉教育

当会が実践する福祉教育は「福祉出前講座」と称し、「講義」をはじめ「体験」や「交流」等、各種プログラムを用意しており、各ご依頼者様の要望に合わせてプログラムを作成しています。現在は学校からのご依頼が多く、市内の殆どの小中学校で「総合的な学習の時間」を活用しプログラムを実践しています。最近では、防災や災害支援に関心のある学校が多く、中学校や高校では、避難所運営ゲーム（HUG）や災害図上訓練（DIG）等、防災プログラムを取り入れ、有事の備えや、顔の見える関係の大切さ、イザという時に「自分には何ができるのか」を考える機会としています。

なお、講座を実施する際は、地域の支会（地区社協）福祉委員をはじめ、ボランティアや福祉事業所、地域包括支援センター、そして福祉分野のみならず、様々な団体・企業にも参画いただき、児童・

生徒とともに「福祉（しあわせ）」について一緒に考えていただく場にもなっています。

福祉教育の広がりとその意義

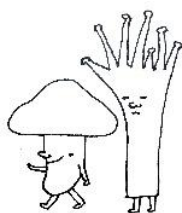
当会で実施する福祉教育プログラムは学校だけが対象ではありませんが、この福祉教育を市内の多くの学校で実践してきたことで、教育委員会をはじめ、多くの学校関係者から評価をいただき、現在では、学校と地域の連携・協働も密になつてきたと感じています。学校側も「取りあえず何かあれば社協に相談してみよう」という風潮になつてきており、講座のみならず個別の相談支援等にもつながってきていることは、福祉教育を長年実践してきた大きな成果と考えています。



八千代市社協における福祉教育の役割

当会では、福祉教育を全ての業務に関連しているものと捉えています。ボランティアや市民活動への支援はもちろんのこと、広報啓発活動を通じ当会の事業に共感いただくことで会費や寄付につながる一連の流れや、個別支援で関わる要支援者のエンパワメントの促進も、これらの過程は全て福祉教育と考えています。

当会では、これからも地域の皆様とともに連携・協働し、「気づき」「共感」「主体性」を大切に地域福祉を展開していきます。そして、コミュニティソーシャルワーカーは、地域や個人の抱える課題を提起し、差別や偏見があれば払拭しながら、お互いを理解し合い、誰ひとり取り残すことのない地域社会の実現に向け実践を重ねてまいります。



地域のつなぎ役、
それが社協相談員！

南房総市社会福祉協議会
平井 良治（ひらい りょうじ）



突然ですが、皆さんは地元の社協と関わりはありますか？

知っているようで知らない、どう関わっているのか、何で関わる事ができるのかなど、感じていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか？

社協は、「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」とされており、子どもから高齢の方まで、幅広い年齢層の地域の方と共に活動をしている団体です。

今回は、社協の相談員がどのような取り組みをしているのかをご紹介します。

南房総市は高齢化が進み、8050世帯が非常に多い地域です。その中でも、五十代の支援が必要な方へアプローチをしたくても、私たちはなかなか知ることができません。

そこで、このような世帯が増えていく現状を、地域の困りごととして捉え、地域の方々と一緒に解決策を考えることに取り組んでいます。

具体的な取り組みとしては、地域の相談役でもある民生委員児童委員に、現状を説明するとともに、世帯の情報を共有させてもらい、支援機関が入りにくい場合は、まずは、地域で対応ができないか相談をします。そして、対応ができないところを、社協が制度や支援機関につなぐことを知っていただいています。

また、地区社会福祉協議会や協議体といった地域住民を主体とした地域の話し合いの場でも、地域での助け合いを提案し、生活の中でちよっとお手伝いすることで自分らしい生活ができるように地域支援にも力を入れています。

このような取り組みは、日ごろから地域の方々と顔の見える関係

を作っている社協だからこそできると思います。地域の中で、相談できる関係を作っておくことで、お互いに困ったことが起きた時に助け合えるのです。

そういった関係で地域の方々と相談にあたることで、日ごろから地域の方々も地域の困りごとを意識することができ、地域の役割、社協の役割、支援団体の役割、行政の役割といった役割分担ができ、困りごとを抱えた世帯も相談しやすい環境となっていくます。

しかし、私たち社協も、私たちだけでは解決できないことがあるため、日ごろから、関係機関と連携できる体制を作り、必要な時に、関係機関につなぐ役割を意識しています。よって、私たち社協は、地域に近い支援機関としていることで、地域の声を聞く相談員として機能しています。

このように、社協は地域の相談員として活動しています。関係する支援機関から地域につなぐこともできますので、ぜひこれからも地元社協との関わりを持っていただきたいと思います。

石川県被災地
支援の現場から

東京福祉専門学校
田邊 慎吾（たなべ しんご）

「公費解体で更地になったのは良いけど、心にポツカリと穴が空いたようだよ・・・」「こんな事言っても良いのかな・・・」といった切実な想いが言葉として表れていた。私は十一月十三日から十一月十五日の三日間活動させていただき、輪島、珠洲、内灘などの出身の方との出会いがあり、様々な方との対話を通して「孤立の課題」と「アウトリーチ」の重要性を強く感じた活動となった。

全壊や半壊のため、住み慣れた場を離れ、みなし住宅へと移り、雨風しのげる場は確保された。しかし、人との交流を失った人も多く、フォーマルサービスは身近にあるが、サービスを利用できない（知らない）方が多くいた。そして、インフォーマルの繋がりも減少しており、社会的孤立となるリスクも懸念点であった。

一方、訪問といったアウトリー

チは、新たなニーズの発見の機会となり、ソーシャルワークの重要な機能だということを再認識した。被災関連の相談支援として訪問するが、介護予防、DV、虐待などといった潜在的なニーズや課題が表出化されることも多々あった。

今回、短い期間の経験ではあったが、現地では多くの方が支援を求めているように感じる。限られた時間・能力ではあるが、今後力添えできればと思います。

介護老人保健施設フェルマータ船橋 (本会理事 災害対策副委員長)

塩原 貴子（しおばら たかこ）

十一月二十三日、二十五日の二日間ですが、活動に参加しました。希望は二十三日～二十五日の三日間でしたが、ちょうど二十四日は定員がいっぱいとのこと。

金沢の公営住宅やアパート等に避難しているみなし仮設にお住まいの方々を戸別訪問させて頂きました。

震災、集中豪雨からある程度日が経ってきている、そろそろ冬が始まる時期。金沢の生活にも少しずつ慣れてきている方が多いのか

な、と感じましたが震災から一年近くなってきたからこそ「あと仮設にいられる期間が一年しかない。今になっても今後の生活の見通しが想像できない」や「高齢者の振り込め詐欺」のような、やっと少し穏やかさを取り戻してきた気持ちをまた違う不安の波が襲ってきている方々を目の当たりにしました。私達にできることは、寄り添いお話を伺い、今ある情報を正しくお伝えすることしかできないと落ち込むこともありましたがそんな私達に明るく接して頂ける皆様に優しさを頂きました。

実は思いがけず、一日お休みが出来たのでバスで三時間かけて輪島まで足を延ばしてきました。想像を絶する、まだまだ復興には程遠いと思われる景色に愕然としましたが、少しずつ復興が始まっている箇所もあり、報道も少なくなってきた中、決して風化させてはいけない現実を自分の目で見てこれたことは貴重な時間となり、職場や友人へ伝えていきたいと思っています。



畑社会福祉士事務所 吉田 愛子（よしだ あいこ）

十月二十七日から三十日まで、金沢市社会福祉協議会に設置された、「石川県地域支えあいセンター金沢」で活動してきました。

業務は、輪島市・珠洲市などの被災地から金沢市内の「みなし仮設住宅」に避難生活されている方々を訪問し、避難生活での困りごとや健康状態などを聞き取り、それを社協に持ち帰って報告し、今後の生活再建や健康維持につなげる内容でした。

一日に十～十三件の住宅を訪問しました。不在でお会いできない方もいましたが、お会いできた方々は、これまでに何回かの訪問を受けているので私たちが訪問しても、快く困りごとを話してくださいました。

訪問して印象に残った人達です。
①能登の広い自宅から、金沢の狭いアパート生活に耐えられず、少しでも広い住宅を求めて引っ越しをしたという方
②高校受験の子ども

（姉・弟）が震災のショックで不登校になり、更に慣れない土地の学校に行けず子どもたちの先が見えず苛立ちを抱えている親の姿に、何と声をかけてあげたらいいのか…

③親子（父・兄・妹）で輪島塗の工房を営なみ、うまくいっていた兄弟関係が地震で崩れてしまったと話す妹さん
④先へ進むためには、過去を振り返っている暇はない。そして、地震の体験や失ったものの思いは、人に話せるものではないと、話されていた高齢の女性の言葉に“本当の気持ちはそうなんだ”と自分を納得させることができる言葉でもありました。地震と豪雨による二重の災害に言葉もありませんでした。復興には時間もお金もかかるという現実を受け入れるしかないのかと。そんな感想を持ちました。

千葉県からの派遣も私たちが十名近くになっており定着してきているようです。受け入れる社協職員の皆様も慣れてスムーズなように見受けられました。また、各県から派遣されてきた社会福祉士と二人のペアを組んでの訪問なので、それぞれの県の社会福祉士会の実情や各県のばあとなあの情報なども仕入れることが出来ました。

行くまではなにが待っているかと不安でしたが、終わってみると行って良かったと思います。ビビる私を応援してくれた服部委員長に感謝です。大変お世話になりました。

社会福祉士の

わ

ばあとなあ千葉 成年後見人

内山 貴子（うちやま たかこ）



「うわーおいしそう」と言いながら、自ら手を伸ばして白玉クリームぜんざいのふたを剥がし始めたAさんの、ちよつとふくらまされてお元氣そうな様子にほっとしました。

コーディネートからAさんの保佐受任依頼があったのは一年半程前でした。認知症の独居で、夜間に警察に保護され、自宅の床が腐敗食料品で朽ちていた等々あり、

地域包括支援センターに繋がり、ご本人も特養を希望しているが、お子さんが遠方在住で対応できない為の申立でした。入所契約後は月1回程度の面会が主な活動との説明を受け、お引き受けしましたが、就任してすぐの関係者会議で、Aさんは「一人で何でもできるので、心配しなくて良い。このまま自宅で生活する。」と言い、『話が違うよ。』と思いましたが、週二日のヘルパーと月二回の訪問診療、一日一回の宅食で、在宅生活継続となりました。

私は十一年程前に成年後見活動を始めから、十三名の後見と四名の保佐を受任し（四名の方は他界）、在宅の方は二名です。

個人情報保護法の関係もあつてか、受任依頼時の情報は少なく、受任後の裁判所での資料閲覧や関

係者からの聞き取りで知ることとなります。私は法律的な事は苦手なこともあり、『成年後見センター成年後見制度利用促進調整会議において法的に複雑な手続きが必要であると考えられる為、弁護士が適任との意見を頂いています』と申立書に記載されていた方は、市長申立の担当者から「社会福祉士が選任されたんですか？」と言われ途方に暮れたこともあります。しかし、受任したからにはやるしかなく、地区会のメンバーに相談し、色々な方の協力を頂き、様々な法的手続きを行いました。その経験もあつてか、受任の決断はある意味賭けであり、恐怖さえ感じます。

そうは言っても、目の前で満足そうな表情での「良いところを紹介してもらった。」とのAさんの言葉は、非力な私でも少しはお役に立てているのかと、安堵すると共に、やっついて良かったなと思える瞬間です。



受任後は、週一度程度の訪問やケアマネジャーさんとの情報交換で様子を見ていましたが、五月下旬に大腿部骨折（救急車要請、入院先確保等、関係者との連携の大切さを実感）で入院、三度の手術とリハビリを経て、十月下旬に特別養護老人ホームに入所となっていたのです。

ご本人には痛い思いをさせてしまふこととなりましたが、安心・安全に心地よく生活できる場にたどり着けたことは良かったです。

年女で還暦を迎える私は、穏やかに日々を過ごしたいと切に願っているのですが、十二月に入つてこの原稿依頼があり頭を悩ませていたところ、中旬に被後見人が他界されて対応に追われ、目途が立ってきたところで、原稿に取り掛かると、別の被後見人の母親の成年後見人から、コロナ感染したが受け入れ病院がなく嘱託医師指示の下、老人ホームで出来ることをしているので長くないとの連絡が入る等々、バタバタした状況は続きそうです。

地域集会 印旛合同地域

【リアル事例検討会】

「人の死と意思決定支援」

～そこに愛はあるのか～
報告者 岩崎伶奈(いわさきれいな)

今回の地域集会では、山武が
つながる劇団の方々をお呼びし、事
例検討会を行いました。過去にも
劇団の方々をお呼びし、事例検討
会を行なってきましたが、今回は
二回目にして劇団シリーズの第三
弾、題して「人の死と意思決定支
援」～そこに愛はあるのか～とい
う「人の死」といったシリアスな
テーマを、コミカル且つリアルに
演じる劇団の映像を通して学びを
深めることができました。山武が
つながる劇団とは、山武圏域で活
動をしている医療や介護、福祉、
司法等の専門職の方々が集まった
劇団です。日常の業務で培った経
験をもとに、「こんな家庭ある！」

「こんな人達いる！」等の事例を
演じられています。紙面だけでは
深めることのできないその事例の
背景などをみんなで考えることが
できるのが、魅力の一つだと思っ
ます。

事例の内容については割愛しま
すが、さまざまな課題を抱えた「津
流留家」が家族の死という現実
に直面します。そうした場面での家
族それぞれの思いや支援者側の思
いを考え、グループワークを通し
て皆さんと共有しました。

日々の業務の中では支援者とし
ての考えに傾きがちであることに
対して、改めて家族一人ひとりの
思いを、劇を通してよりリアルに
考えることができたと思います。
一つの物事が家族それぞれの考え
や生活に影響を与えており、支援
者はそうした人々の人生や想い、
決断の場面に立ち会う仕事である
ことを再認識しました。その上で
人の死という事例を通して、意思
決定支援を行うにあたり、本人や
家族、支援者それぞれ思いが違
う場面においても、キーパーソンは

本人であることを常に忘れず、そ
の本人が選択し納得感のあるプロ
セスを踏むことができるよう支援
していくことが大事であると学び
ました。また、専門職としては知
識という部分においても大切で、
人の死に関連する制度や仕組みに
ついて、学び知識を深めること
ができました。

研修後の懇親会では、つながる
劇団の座長を務める小林さんから
劇団ができるまでの発足秘話など
も伺うことができました。NPO
法人リンクの活動の一つである山
武がつながるネットワークの中で
事例検討を行うにあたって、どう
せなら楽しくやろうということ
で寸劇をしようと呼びかけ人になっ
たのが、座長の小林さんだったそ
うです。映像の中でもさまざまな
工夫がされており、次回シリーズ
の伏線などが隠されていたりする
そうです。

私はつながる劇団の事例検討会
をこれまで三回参加してきました
が、どのグループワークでも活発
で自由な意見が出ているなあと感

じました。その理由は、専門職が
演じるリアルな事例だからなのだ
と思います。今回も皆さんと楽し
みながら、さまざまな視点から事
例を深めることができました。

まちぶらカフェ

今年度は二回、駅で集合、施設
を見学、職員からの講義、交流の
機会を持ちました。今後も様々
な場に伺えたらと考えていますので、
「紹介したい職場」「見てみたい施
設」がありましたら事務局にメー
ルください。参加者の報告を紹介
します。

【七月二十日(土)シニア向け安心
賃貸住宅へーベル Village 東千葉
(東千葉駅近く)】

今回は大手住宅メーカーの「シ
ニア向け賃貸住宅」の見学とその
現場で勤務している社会福祉士の
説明を受けました。初めは「営業
話だろう」と思っていました、
説明を受けると自分の視野の狭さ
を痛感しました。

それは、民間企業で社会福祉士

として現在のポジションに就くまでに様々な努力と社内活動をされてきたこと、どの現場でも社会福祉士の知識経験が必要なケースが山ほどあることを知りました。まちブラカフェは様々な現場を通して社会福祉士の方々の意見交換ができ、福祉業務経験の浅い私には現場の情報と知識、そして知恵をいただき良い機会でした。

(南八街病院ダイケア

早梅恵美子)

【二月十一日(土)認定NPO法人ユースタート事務局(行徳駅近く)

行徳駅ソーシャルワーカー十一名が待ち合わせ。創設者二神氏、レンタルお姉さん、お兄さんのスタッフから直接話を聞くことができ、アウトリーチによって、ひきこもりから解放し、自立へ導く課程を聞かせていただきました。「大家族から核家族に変わった。二人だけでは支えきれないから家族を開くん」信じて待つは三年まで」事例をもとに、実践に裏打ちされた考えには説得力がありました。

帰りの駅までの道中では、ソーシャルワーカー同士、熱いトークに盛り上がっていました。

(柏市社会福祉協議会 山口利史)

二〇二五 社会福祉士会が贈る ふくしの福袋 ～分野を越えて～



年が明け、松も明けぬ内から千葉県社会福祉センターには、ただならぬ熱気が漂っていました。令和七年一月四日、千葉県社会福祉士会主催のイベント『ふくしの福袋 ～分野を越えて～』が開催されました。

会場には、溢れんばかりの人・ひと・ヒト。最初に登壇者のリストを見た時、よくこれだけの千葉のレジェンド級社会福祉士を集めたもんだなあ、と驚きましたが、聴講している方の中にも各地で活

躍する諸先輩方がたくさんいらっしゃいました。

会長の開会宣言に続き、「高齢分野」、「障害分野」、「こども・若者分野」、「社会福祉協議会」、「行政分野」、「女性分野」、「権利擁護分野」の七つの分野それぞれで活躍する社会福祉士達が、分野ごとに決めたテーマのもと討論を繰り広げました。メンバーの顔触れを見ていると、普通の展開では収まらないだろうと思っていました。決められたシナリオなど全くない、登壇者同士がお互いの武器をさらけ出して、ライブ感にあふれハラハラするまさに「真剣」勝負。単なる制度や社会に対する批判や苦言ではなく、自分の働く場所を俯瞰しながら、どこが動きにくいのか、組織や機能を活かしていくために何をすべきか、などといった視点で話が展開されていきました。最後は、『タテワリにしない福祉ってどういうこと?』というテーマでの総合討論。千葉の枠には収まらないメンバーがこれまで展開されてきた分野ごとの討論を受け、

さらに分野の枠を越えて、聞いている者の胸に突き刺さるメッセージを発信しました。

このイベントで斬新だったのは、登壇者の脇のスクリーン。この日のために開設したLINEのオープンチャットが映し出され、当日の参加者は誰でも参加可能。討論を聞きながら、そこに参加者の感想や質問が流れます。その質問を受けて討論の展開の幅が広がる、そんな参加型の能動的な聴講体験となりました。この新たな試みが、毎年の幕開けになっていく未来を想像すると、胸が躍ります。

(千葉県社会福祉士会広報部会記者)



支援者支援の居場所

一般社団法人Void

(ちば子ども若者ネットワーク)
かわぐち みゆき

市川市にあるユースセンター「きよてん」。部屋の中に入るとアニメ・ゲーム・特撮・プロジェクトに高速WiFiなどなど…(ヲタクにとっては)夢のような空間が広がっています。この場所では、主に十八歳以上の若者や子ども・若者に関わる支援者達(正確には支援者ではないので、ここからは便宜上大人と表現します)が週一回集い、夕飯を食べたり、サブカルを楽しんだり、遅々として進まない仕事やレポートに悪足掻きをしてみたり…と各々が好きなことをして、ただのんびりと過ごしています。(私も若者やヲタクな大人たちから数多のゲームと新たな沼に落ちる喜びを教えられて

います♪)

そんな「きよてん」の唯一のルールは「支援禁止」。「きよてん」では、若者も大人も対等な関係性の中で、それぞれが自分らしく過ごせる場を目指しています。また、支援者がまずは立場や責任を置いて安心して過ごせる場として支援者サロン(通称…おとなのお好み焼き会)も月一〜二回開催しています。「きよてん」にやってくる若者や大人たちからは「なんだか落ち着く場所」「何だか癖になる不思議な場所」との声も聞こえ、あえて支援を前提としない場、支援者の役割を降ろす場の意義も感じています。



さて、ここまで語ると、さぞや私にとっても「最初から居心地の良い場であつただろう」と勘違いされそうですが、「きよてん」に初めて訪問した私の感想はむしろ

「居心地が悪い」でした(笑)。特に最初の数回は、「何か役割がほしい。でも支援禁止の場で、どう振る舞って良いか分からない…」の葛藤を繰り返し、さぞ挙動不審だったと思います(その後、少しずつ場に慣れ、最終的にぐだぐだに寛ぐようになるのですが…笑)。私は、普段は学校の教員として働いています。日々、社会から求められる教師像(もしくは支援者像)や組織の意向など、教えきれないほど様々なものを背負い、いわば「支援者の鎧」を着て仕事をしている状態でした。しかし、「きよてん」では「支援禁止」。支援者としてではなく、一個人としての価値観で人として場に在ることが求められます。今、振り返ると「きよてん」に関わり始めた頃感じた「落ち着かない感覚」は、支援者の鎧を脱ぐことや、支援者としてではなく何物でもない己の価値観で他者と向き合う事への無意識の抵抗感だったのかもしれない。

「きよてん」に集う若者たちのニーズの一つに「支援がない場で

一息つきたい」があります。また、私も「教師でも、支援者でもない自分でいたい」と思うときに「きよてん」に足が向きます。もしかしたら私たちは「支援者としてではなく、人として」向き合える誰かや時間を求めたくて「きよてん」に集っているのかもしれない。そんな何だか癖になる場所(笑)で、これからも共に笑い、時に悩み迷いながら過ごしていきたいと思っています。そして、こんな場所に少しでも心が揺れたら、ぜひ一緒に時間を過ごしに来てください♪



認定社会福祉士の声

順天堂大学医学部附属浦安病院
塩路 直子（しおじ なおこ）



私が認定社会福祉士を目指したのは、「いよいよ社会福祉士にも認定制度が出来たから」です。医療機関は専門職集団であり、その中で業務独占でもなく、採用人数も少数の社会福祉士は、他の医療の専門職からの認知度もまだまだ低いのが現状です。診療報酬という病院の収入に大きく関わる中に社会福祉士という資格が明記されるようになったのも、私が働きだしてからある程度の時間が経ってからです。医療機関で社会福祉士を基盤にして働く職種は少なく、

医療者と呼ばれる中に含まれることにも違和感を持ちながら働いていました。そのような中で、いよいよ医師や看護師のように、社会福祉士にも認定制度が設けられ、その中に「医療分野」があることを確認し、当然のように申請準備をしました。自分が何者であるかを説明するために認定社会福祉士になったのだと今は感じています。医療分野の認定社会福祉士になったことで、社会福祉の職種ではあるけれど、現場で「コメディカル」と他の医療の専門職とひとくくりになることへの抵抗感が小さくなったように思います。

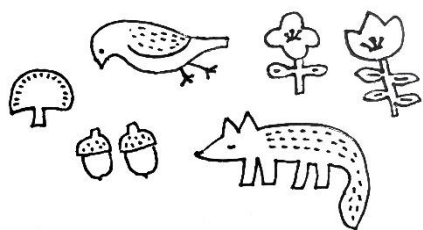
認定社会福祉士にはいくつかの分野があります。私が取得した医療分野は最も登録人数の多い分野になります。もともと医療ソーシャルワーカー（MSW）として職能団体がありましたが、社会福祉士であることが位置づけられたのは、資格が出来てからしばらく経ってからであったことを知るMS

Wも段々少なくなっていると思います。医療機関が社会福祉士の受験資格を取得する上での実習先として認められたのもずいぶん後でした。「MSWが誰かわかるけど、社会福祉士は知らない」と多職種の方が話すのは私の職場ではまだまだ珍しくありません。今は、認定のつく社会福祉士になることで病院という専門職集団の中で、少しでも重みのある印象を与えていきたいな、と思いながら更新をしています。

現在は管理職となり、更新をするために必要なスーパービジョンの時間を確保することが難しく、定められた期間内で終えることが出来そうにないので、次の更新は申請をして遅らせる予定です。ただ、そのようなノルマでも自分と与えない限り、とても重要だとわかっていても、自分がバイジーになる時間を作れないところがあるので、そういった意味で、自分にとって認定になることは必要であ

ったと感じています。また、認定社会福祉士としての研修に参加することで、他分野の認定社会福祉士の方と出会い、繋がれたことも取得したからこそだと感じています。取得しない理由がないのなら、生涯研修計画のいくつかのところに認定社会福祉士を定めてみていいのではないかと思います。

会員としては東京支部に属しているのですが、「点と線」を知ったのはこの原稿依頼でした。千葉県で働く認定社会福祉士としてお声掛けいただき、これもご縁と思って、千葉県の仲間としてお見知りおきいただけると嬉しいです。



事務局便り

長い冬が終わり、待ちに待った春が来ました。皆様いかがお過ごしでしょうか。年度末や年度初めの準備でお忙しい日々をお過ごしのことと思います。季節の変わり目は体調を崩しやすくなります。くれぐれもご自愛ください。

日本社会福祉士会へ会員管理業務委託のお知らせ

2025 年度より、千葉県社会福祉士会事務局で行っておりました会員管理業務を日本社会福祉士会（以下日本会）へ委託することとなりました。4 月 1 日（火）以降、下記会員管理業務に関する手続きは、日本会へお問合せ、ご提出をいただきますようお願いいたします。

【会員登録内容変更手続き】

- ・氏名、住所、勤務先等の登録内容に変更がある場合は、日本会ホームページ内「よくある質問」に掲載されている変更届をダウンロードし、FAX 又はメール添付にてご提出ください。

【退会手続き】

- ・退会届による手続きが必要となります。日本会ホームページ内「よくある質問」に掲載されている退会手続きをご確認いただき手続きください。

会 員 の 皆 様 へ お 願 い

【重要】2025年度年会費引落のお知らせ

年会費 15,000 円と引落手数料 121 円の合計 15,121 円を 2025年 4 月 14 日（月）にご指定の口座より引落させていただきますので残高不足等がないようにご確認をお願いいたします。

研 修 等 ・ 行 事 の お 知 ら せ

※4 月以降、開催研修の申込案内をホームページに随時掲載いたします。

また、研修等が新たに決定した際にはホームページに随時掲載いたします。是非チェックしてください。

千葉県社会福祉士会ホームページ：<http://www.cswchiba.com/>

ようこそ！千葉県社会福祉士会へ

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
福井 佐保麗	—	習志野市屋敷地域包括支援センター	木村 秀一	千葉市稲毛区	千葉障害者職業センター
石橋 真弓	—	—	山田 貴子	鎌ケ谷市	—
古野 愛子	—	—			
準会員					
梅原 麻里	—	—			

正会員登録書「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。（順不同・敬称省略）

令和7年1月20日現在の会員数

正会員 1,676名、準会員 2名、賛助会員 2名 合計 1,680名